

---

# 闇を切り裂け

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

闇を切り裂け

### 【著者名】

じはんライス

### 【あらすじ】

銭湯の休憩場で書きました。一枚のコント。漫画家が主人公です。

頭ん中が真っ白。そんな彼は漫画家、珍太郎。〆切間近になるとだいたいそう。

担当編集者、口リ華が腕時計を見ながらイライライラしている。

珍太郎がうとうとしてきたので口リ華は竹刀で叩いた。

「いぎやあああああ

「ね・る・な！？」

珍太郎は漫画家になんかなるんじゃなかつたと思う。部屋で気楽に書いてりやよかつたのは趣味のときだけ。今はひたすら部屋から飛び出したい。

珍太郎は、とにかくアイデアが出ないことには描くことができないので、ひたすら頭をひねる。

ろくなアイデアが出てこない。下ネタばっかり。

口リ華が、仕方ない映画くらいは観てよし、と言った。

珍太郎は喜んで、DVDをプレイヤーに入れた。

「あん！あん！あん！」

「いくいくいくいく

あ間違えた、と珍太郎は舌を出した。

口リ華は回し蹴りを食らわせた。

珍太郎はそのショックでひらめいた。こうなると速い。さらさらと絵コンテを描き、口リ華に見せる。

「よしあもろい。これを描け」

珍太郎は原稿用紙に向かつ。

またうとうとしてきた。

口リ華は電流を流した。「うぎやああああああ

珍太郎は丸焼けになつた。チャーシューみたい。

口リ華は、仕方ないと想い、服を脱ぎ、おっぱいを見せた。

興奮する珍太郎。

「描き上げたらもませてやる」

速い。速い。速い。すごいスピードだ。食い逃げしてゐる陸上選手みたいだ。むちや速い。

さて、下書きが完了。あとはペンを入れてく作業だ。

さすがに珍太郎は疲れはて眠ってしまった。

仕方なしに口り華がペンを入れていく。次々に描き、アシスタントに渡していく。

珍太郎はその頃、夢の中で口り華のおっぱいをなめていた。目が覚めると、原稿はすでに仕上がっていた。

「よし。印刷所に間に合つた」

口り華は原稿を封筒に入れ、腕時計を見る。

珍太郎は、気をつけてねと言ひ。口り華は任せておけと言ひ。

口り華は外に飛び出した。

あわてすぎて、トラックにはねられた。アスファルトに倒れる口り華。

救急車の音が聞こえる。珍太郎やアシスタントが何事だと気になり見に行くと担架に乗せられてる口り華。

「口り華！しつかりしろ！おい！」

「うう 珍先生。原稿を。原稿を」

「わかった！任せておけ！」

珍太郎は口り華から封筒を受け取り、ヘリコプターに乗り込んだ。

そして、飛び立つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9505n/>

---

闇を切り裂け

2010年10月10日12時54分発行